



WASEDA ROPE

## 平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業 推進校実施報告書

- 1 学校名 : 熊本県立八代東高等学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 22 日 (水)
- 3 対象 : 2 年生 (280 名)
- 4 派遣オリンピック : 勅使川原 郁恵さん (ショートトラックスピードスケート 長野 (1998) ・ソルトレイク (2002) ・トリノ (2006) オリンピック 出場)

### 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 2 月 22 日 (水) に、熊本県立八代東高等学校にて、2 年生 280 名を対象とし、長野・ソルトレイク五輪のショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターや日本各地でウォーキングの指導を行うなど、様々な方面で精力的に活動されている勅使川原郁恵さんに「オリンピックをとおして学んだこと」という演題でご講演いただきました。

講演の冒頭では、ショートトラックの競技者は、下半身の筋肉が発達することやカーブ時には地面すれすれまで身体を傾けて滑るため、腹筋が斜めにつくこと等についてお話しされました。その後、勅使川原さんは、実際にステージに上がってカーブ時の姿勢を披露されました。地面すれすれまで身体を傾けた状態をキープする勅使川原さんに対して、生徒からは歓声があがりました。

講演の中盤は、勅使川原さんが生徒たちに質問を投げかけ、答えを聞きながら勅使川原さん自身の考えを生徒たちに伝えていく形ですすめられました。はじめに勅使川原さんは、生徒たちに「夢がある人はいますか?」と質問されました。そして、スケートが大好きであることを原動力に、様々な困難や苦しい練習を乗り越えて中学 2 年生の時に初めて日本選手権で優勝したという自身のエピソードについてお話しされ、「夢に向かって努力を続ければ良いことが必ずある」ということを生徒たちに伝えられました。つづいて、「ライバルはいますか?」という質問をされた際には、「自分自身」をライバルにすることで、周囲の目が気にならなくなり、日本選手権の優勝を機に周囲から感じていた重圧をはねのけることができたというお話をされました。さらに、「今一番目標にしているテストや大会はありますか?」という質問を通して、試験や試合の当日にピークを持つていくためには、周到なスケジュール管理が必要となることを力説されました。

講演の最後には、競技引退前の段階で、引退後にはスポーツの魅力をもっと多くの人に伝えていくためにスポーツキャスターになるという夢をもっていたというお話をされました。そして、現在はその夢を実現し、さらに「健康」をキーワードに多くの資格取得に向けて努力を続けていると述べられました。生徒たちは、競技引退後も夢や目標の実現に向けて努力を続けられている勅使川原さんの姿に感銘を受けているようでした。

生徒の事後アンケートでは、「夢の実現に向けて、まずはスケジュール管理を徹底していきたい」、「平昌オリンピックでショートトラックを観てみようと思った」といった記述が多くみられ、勅使川原さんのお話が生徒たちの心に響いている様子が窺えました。

6 授業の様子



演題と講演の様子



講演の様子（ショートトラックのカーブ時の姿勢を披露する勅使川原さん）



勅使川原さんに質問する生徒



代表生徒によるお礼の言葉



花束贈呈



集合写真